

市議会臨時会と3月定例会の採決結果

第230回加西市議会臨時会が2月7日（日）に市民会館で開催され、教育委員を任命する同意案が当日採決、他の4議案は各委員会での審議を経て、2月15日（月）の臨時会最終日次第のとおり採決されました。議案の概要は、広報がさい2月号2頁に掲載。なお、臨時会で否決された公益法人への職員派遣条例案については、3月1日市議会定例会初日に全会一致で可決されました。

■議案の採決結果

※議員名は議席順で敬称を略しています。○は賛成、×は反対を表しています。

議員名	2月7日採決		2月15日採決			3月1日採決
	教育委員会委員任命	副市長二人制	開発調整条例	指定管理者の指定	公益法人職員派遣	公益法人職員派遣
井上智章	○	○	○	○	×	○
別府直	○	○	○	○	○	○
丸岡弘満	○	×	○	○	○	○
小谷安富	○	○	○	○	○	○
繁田基	×	×	×	×	×	○
土本昌幸	×	×	×	×	×	○
高橋佐代子	×	×	×	×	×	○
黒田秀一	×	×	×	×	×	○
吉田稔	×	×	×	×	×	○
後藤千明	議長	議長	議長	議長	議長	議長
森元清蔵	×	×	×	×	×	○
井上芳弘	○	×	○	○	○	○
西川正一	○	○	○	○	○	○
三宅利弘	×	×	×	×	×	○
高見忍	×	×	×	×	×	○
森田博美	×	×	×	×	×	○
桜井光男	×	×	×	×	×	○
山下光昭	○	×	○	○	○	○
採決結果	不同意 (賛成7、反対10)	否決 (賛成4、反対13)	否決 (賛成7、反対10)	否決 (賛成7、反対10)	否決 (賛成6、反対11)	可決 (全会一致)

■3月議会を迎えて

山積する重要課題に前倒しで取り組むため、2月臨時議会に教育委員の選任など5議案を提案しましたが、全て否決されました。開発調整条例や職員派遣条例など、他市町ではずっと以前から制定されている条例が加西市に無いこと自体が問題なのですが、過半数の議員にその必要性を理解されず、またしても否決されました。

3月議会の初日、加西市社会福祉協議会に限定した職員派遣条例が全会一致で承認されたことで、市社協からの一年越しの要請に漸く応えることができます。この条例は何ら特別なものではなく、平成12年「公益的法人等への一般職の地方公務員の派遣等に関する法律」の施行を受けて、多くの自治体で既に定められているものです。派遣先を限定しない他市町の条例に比べて変則的な条例となったことは不本意かつ残念です。市社協は昭和46年に設立されて以来、約39年間殆んど改革がなされないまま多くの問題を抱え、その改革は喫緊の課題でした。市社協がコンプライアンス（法令順守）とガバナンス（統治）を徹底させ、自立した社会福祉法人になってもらうことが市民益であると考えます。

市議会と市長との対立だけを伝える一部報道は余りに表面的な理解です。市長が一切歩み寄りをせず、市民不在の議論をしているとの指摘も失当です。市民のため、加西市の将来のためを考えれば、市長には譲れないものがあり、加西市に必要な条例だからこそ何度否決されても制定を求めているのです。変なところで市議会との融和を優先すれば、改革を後退させることになりかねません。

選挙や議会審議の過程において、市民益を考えて政策本位で理性的な議論がなされる限り、感情的対立は残らないと私は確信していますが、現状、同じ市民・有権者が選んだ市長と議会の意見が違ふ、いわゆる「ねじれ」が生じています。これを根本的に解決するには、次回の市長選か市議選で市民の皆様が政策本位の選挙をされる必要があるでしょう。あるいはリコールという方法もありましょう。

議員各位には、市の将来を考えて市民本位で良い政策を自ら打ち出していきたいし、市民の皆様には、市長は議会で決定された範囲内かつ予算の範囲内でしか仕事ができないこと、議会の理解があって初めて改革を進めることができるということを是非ご理解いただきたいと思ひます。そして、市政の現状を正しく認識していただくとともに、自分たちのことは自分たちで決めるという「市民自治」を実践していただきたいと願っています。（市長）

北条鉄道(株)副社長に松本孝徳氏

北条鉄道（社長／中川暢三市長）は3月2日、株主総会と取締役会を開催し、松本孝徳氏を副社長に決定しました。半年から1年間の実務を経験した後、社長に就任する予定です。



まつもと 孝徳氏
松本孝徳氏

■北条鉄道副社長の松本です。どうぞよろしくお願いいたします。

「公募は新聞記事で知り、以前勤めていたコンサルタント会社で培った企業再生の経験を活かしたいと思い、応募しました。

鉄道収入を増やすため、お得な付加価値のある切符の販売や特産品などのインターネット販売を企画しています。また、アステアかさいの管理業務を行っている(株)加西北条都市開発との連携や経営統合、市役所業務の受託なども検討したいと思います。

北条鉄道は4月に25周年を迎えます。鉄道の活性化とともに、コンプライアンス（法令順守）とガバナンス（統治）を徹底し、中川社長が取り組んできた北条鉄道の経営改革とサービスの向上をさらに進めます。」

■経歴

西宮市出身。45歳。北条町横尾在住。平成元年大学卒業後、16年間銀行勤務の後、事業再生専門のコンサルタント会社で債権回収会社や民事再生法が適用された専門学校の再生を手掛ける。19年からは東証一部上場の工業用マシンメーカーで内部監査業務などに従事。鉄道が大好きで、全国の私鉄はほぼ走破。北条鉄道も国鉄時代に乗車。

■北条鉄道のボランティア駅長を募集

駅の掃除や花壇の手入れのほか、独自のアイデアで北条鉄道を盛り上げてください。駅舎の中のコタツを囲んで学ぶ英会話、お坊さん駅長による講話、鶉野飛行場に詳しい駅長による写真展など、現在の駅長の活動は得意分野を活かして多種多様です。

募集期間／4月30日（金）まで



【問合せ先】 北条鉄道株式会社 ☎0036 ※申込様式など詳しくは市ホームページにて掲載。

加古川西部土地改良区の理事長辞任の理由

3月3日、加古川西部土地改良区理事会で私の理事長辞任が了承されました。3月末で理事長職を返上しますが、当面は理事として残り、市長として今後も土地改良区をサポートすることに変わりはありません。また後任の理事長が決まるまでは職務代理者（初田源三副理事長）が遺漏なく対応しますので、どうぞご安心ください。

加古川西部土地改良区は昭和43年1月に発足し、現在の組合員数は7,957人です。うち加西市の組合員数は6,756人で、その他は姫路、小野、加東、西脇、多可町の農業者が加入しています。その中から総代102名、理事24名が選ばれ、これに関係市町からの員外理事6名を加えた合計30名の理事会で運営されています。

加西市市長が理事長を務めるという長年の慣例に従い、私も一旦は土地改良区の理事長職を引き受けましたが、任期満了を待たずにいずれ退任させていただくことは前々から申し上げてきたことです。そもそも理事長は組合員（農業者、受益者）の中から選ばれるべきであり、非農業者で土地改良法に定めのない員外理事の私が理事長であることがそもそも変則的です。

また先般、政治的中立性を確保する観点から、政治家が土地改良区の役員を兼ねることは望ましくないとの農林水産省通達も出ています。理事長に就任して約5年間、私は出来る限りの改革改善に取り組み、毎年予算編成や工事発注などを通して相当なスリム化と効率化を図ってきました。土地改良区の運営や理事長の選任方法などについては、農業者自身の問題として主体的に考えていただきたいと一貫して申し上げてきたところです。

土地改良事業がスタートした当時に比べ、今日の時代背景も社会経済情勢も変化しており、改良区の業務もかつての建設整備から、現在は維持管理が主体となり、大きな資金投下も補助金交渉も減少しています。

私が組合員の皆様に申し上げたいのは、行政依存や事務局任せから脱却し、これまでの古い仕組みを変えましょう、意識の殻を破りましょうということです。組合員の中から選挙で理事長を選び、応分の報酬も支払って常勤・専任でやってもらうのが本来の姿ではないでしょうか。自分たちのことは自分たちで決定するという「自治」が根付くことを期待します。更なる行財政改革と市民サービスの向上のために、私も市長職務の「選択と集中」を進め、法令に基づく職務はもとより、業務の緊急性・重要性を考えながら、優先順位をつけて職務に当たっているところです。

市民の皆様そして土地改良区の皆様には何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

（市長）